

平成30年2月6日
西部農林振興センター県央事務所農業普及部大田支所

標 題	大田市ぶどう生産組合による小学校での食農教育活動！ ～地域に根差した組合活動の実施～
------------	---

(ダイジェスト)

大田市ぶどう生産組合では若手5名を中心に、平成29年4月から地元の小学校への食農教育を行っています。児童は農家の指導により、作業体験を行い地域の特産であるぶどう栽培について理解を深めています。

大田市ぶどう生産組合は大田市鳥井町を中心にぶどう栽培を行っており、地元の鳥井小学校にあるデラウェア（1本）の栽培管理や収穫体験を総合学習の一環として行っています。今年も、4月から若手生産者5名が中心となり、3、4年生の児童に対してぶどう学習の他、ジベレリン処理、袋かけ、収穫、せん定などの栽培体験を行いました。

また、児童は6月に農家の園でデラウェアの収穫体験を行い、収穫されたぶどうは翌日の大田市内の学校給食に提供されるなど、栽培から収穫、出荷、消費まで経験し、「ぶどう栽培の難しさを知った」や「自分たちが作ったぶどうとプロのぶどうでは味が全く違った」など、食べ物を作る難しさと、大切さについて理解が深まりました。

このような取組の他に、大田市の学校給食のコーディネーターと協力し、県内で初めて学校給食にシャインマスカットが提供され時には、生産者が招かれ、児童と給食を楽しみ、ぶどうについて懇談するなど、交流も深まっています。

先日、1月30日に行われた年間最後の作業となるせん定体験後には、児童から生産者に対してお礼の手紙や児童が考えたぶどうのキャラクターが手渡され、感謝の言葉が伝えられました。生産者からは「ぶどう農家でよかった」「生産物を生産する喜びを再確認した」など喜びの声が聞かれました。今後も将来の担い手に対して食農教育実践の支援を行っていくこととしています。



収穫体験を行う児童



学校給食